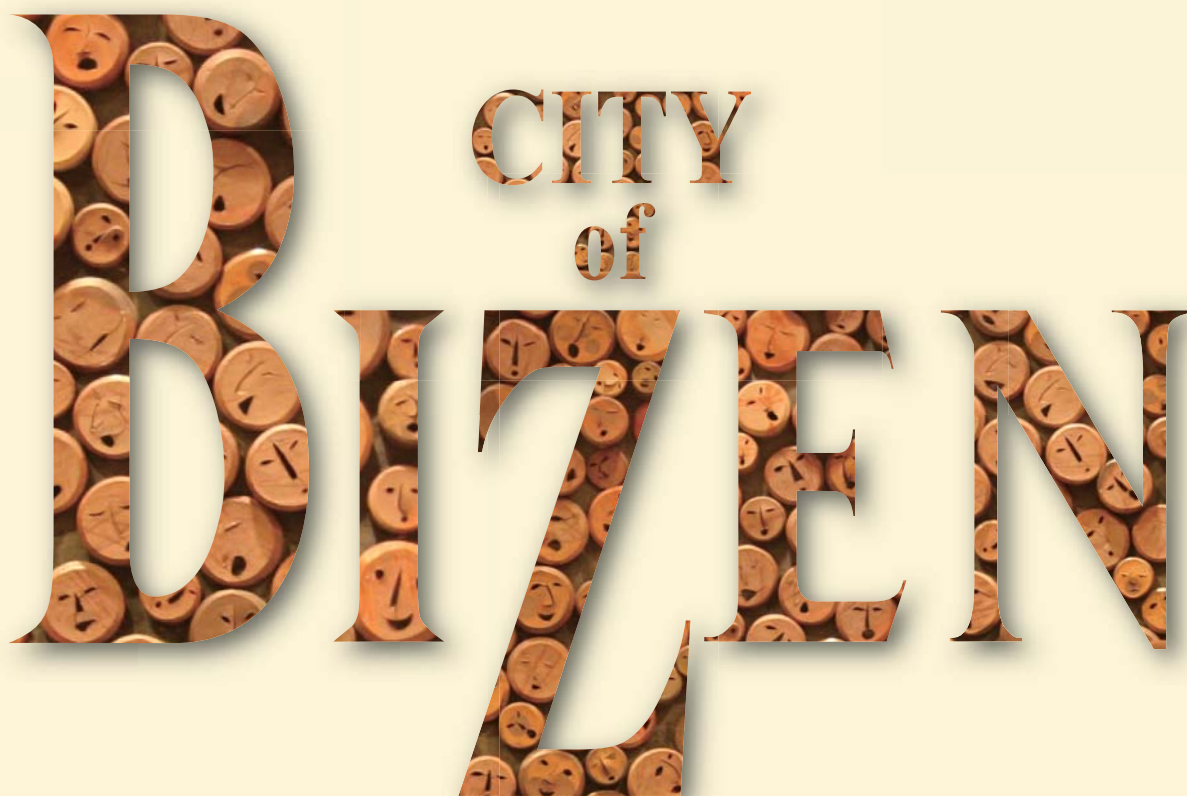


将来を担う人材が育つまち・自分を磨ける・自分を変えられるまち・豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち・地域での支え合いを基本とした協働を推進するまち・安全に暮らせるまち・誰もがいつまでも安心して暮らせるまち・地域の活力を生む産業を振興させるまち・快適な生活を送れるまち・環境を大切に未来につなぐまち・計画を実現する行政

## 第2次 備前市総合計画





# 第2次 備前市総合計画 概要版

(平成25年度～平成34年度)

## ごあいさつ

総合計画とは、まちづくりの指針であり、10年後の姿をイメージし、それに向かってどう取り組んでいくかを示したものです。

新市誕生後につくられた総合計画では、合併前とできるだけ変わらないようにしていくことをまちづくりのテーマにしており、国からの財政的な支援もあったことから、市立3病院が整備され、架橋事業も完成が間近に迫るなど、大きな成果を上げることができました。

しかし、合併から8年が経過し、市を取り巻く状況が合併時とは大きく変わりました。また、合併の恩恵である財政支援も平成27年度から段階的になくなることから、まちづくりの方向性そのものを考え直す時期に差し掛かっています。

こうしたことから、このたび内容の全面改定を行い、「第2次備前市総合計画」を策定しました。この計画では、「ひとつの備前市」をテーマとしており、子どもを通して市民がひとつになろうとするストーリーとして、「教育のまち」を将来像に掲げています。これは、まちは人から成り立ち、その中心は人であるという原点に立ち返るもので、閑谷学校の建学の精神をまちづくりに重ね、住んで誇れるまちにしていこうとする試みなのです。

今後は、本計画に基づき、将来像の実現に向けて取り組んでまいります。しかし、まちづくりは決して市役所だけで成し遂げられるものではありません。市民の皆さまの協力があって、はじめてできるものであり、それがひとつの備前市につながってくると確信しています。

最後に、本計画の策定にあたり、熱心にご議論いただいた備前市振興計画審議会の委員の皆さまをはじめ、市民意識調査、パブリックコメント、意見交換会などを通じて貴重なご意見をいただいた皆さま、市議会ならびに関係各位に心からお礼申し上げます。

皆さま、古い歴史とともに、新しい備前市をつくっていかうではありませんか。

備前市長 吉村武司

## 市の目指す将来像

### 古くて新しい「教育のまち備前」

#### ～学びの原郷

#### 閑谷学校が開かれたまち～

閑谷学校は、江戸時代から今もその学びの精神を伝え続ける学びの原郷であり、「教育のまち」をイメージさせる「備前らしさ」です。



#### 「古くて新しい」とは・・・

閑谷学校の建学の精神と伝統を大切にしながら、教育を中心とした新しいまちづくりにチャレンジしていくことを意味しています。

#### 「学びの原郷」とは・・・

最も重視するのは子どもの教育ですが、他の世代に対しても戦略的に取り組んでいきます。副題の「学びの原郷」の学びは、子どもへの教育だけでなく、生涯学習はもちろん、さまざまな分野で地域に貢献できるひとづくり（人材育成）も意味しています。

#### 「閑谷学校」とは・・・

「モノの豊かさから心の豊かさ」へ世の中の価値観が変化しつつあります。その答えの一つが、震災時に世界から称賛された日本人の礼儀正しさなのではないでしょうか。そのルーツには「儒学」の教えがあるとされており、本市の閑谷学校は、まさにその教えを伝えた誇るべき学校なのです。また、江戸時代の学校でありながら、誰でも受け入れてきた寛容な風土、人づくり、先を見据えた学校経営システムなど、現代に生きる私たちが進めるまちづくりにも生かせる点が多く見受けられます。わたしたちのまちづくりもそうでありたい、また、次の世代へ自信を持って引き継いでいけるまちにしたい、そうした思いがタイトルの閑谷学校に込められています。

## まちづくりの基本方針

まちづくりを進めるにあたっては、「新しい視点」と「備前らしさ」という2本立ての理念にそって、既存の概念にとらわれず、魅力の再発見や創造にチャレンジし、また、そうした活動を支援していきます。

一方で、財源は限られたものであり、最大の効果を上げるためには、どうしてもメリハリが必要となります。本計画では、今後10年間の最大の課題を少子高齢化による地域力の低下と位置付け、そうした課題の解決に行政資源の優先的な配分を行うこととします。

特に、これからの備前市を担う若年者をターゲットにした施策や事業を重点化することで若年者比率の維持・向上につなげ、定住化を促進していきます。

## まちづくりの理念

### ○新しい視点

コンパクトシティ

スマートシティ

ICT

民間活力の導入

定住化の促進

行財政改革

### ○「備前らしさ」あふれるまちづくり

伝統文化のみならず、地域資源、市の独自施策をまちづくりに生かし、特色を出していきます。

## 「教育のまち備前」の支持率 89.5%

\* H24年度市民意識調査で、「賛同できる」「まあ賛同できる」と回答した市民の割合

# 政策体系

「新しい視点」がまちづくりの骨格となり、そこに「備前らしさ」という情緒的な趣を加えた10の政策が本計画を形づくりまします。

## ◆重点政策「教育」

1 将来を担う人材が育つまち	1-1 家庭教育の支援と青少年教育の充実	1-4 子育て不安の解消
	1-2 就学前の教育、保育等の充実	1-5 高等教育における柔軟な学びの場の提供
	1-3 小・中学校教育の充実	

## ◆自己実現政策「生涯学習、歴史・文化」

2 自分を磨ける・自分を変えられるまち	2-1 生涯学習の機会充実	2-3 スポーツ・レクリエーション活動の推進
	2-2 公民館・図書館機能の充実	2-4 人権問題の解決
3 豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かになるまち	3-1 歴史文化の活用と伝統文化の継承	
	3-2 芸術・文化活動の推進	

## ◆協働「コミュニティ」

4 地域での支え合いを基本とした協働を推進するまち	4-1 コミュニティの育成と地域活動の支援
	4-2 国際交流・地域間交流の推進

## ◆土台となる政策「安全・安心」

5 安全に暮らせるまち	5-1 安全でおいしい水の安定供給	5-4 河川改修・砂防施設整備
	5-2 身近な安全・安心対策の充実	5-5 ため池・治山対策の推進
	5-3 消防・防災体制の強化	
6 誰もがいつまでも安心して暮らせるまち	6-1 生活自立の支援	6-4 国民健康保険・後期高齢者医療制度の適正運営と国民年金の事務執行
	6-2 障がいがある人への福祉の充実	6-5 生涯を通じた健康づくりの推進
	6-3 高齢者への福祉の充実	6-6 地域に密着した医療サービスの提供

## ◆生活環境政策「快適・活力」

7 地域の活力を生む産業を振興させるまち	7-1 魅力ある農林業の推進	7-4 賑わいをもたらす観光の振興
	7-2 里海づくりを柱とした水産業の振興	7-5 勤労者福祉の増進
	7-3 商工業、海運業の振興	
8 快適な生活が送れるまち	8-1 秩序ある土地利用と良好な市街地の形成	8-5 道路環境の整備
	8-2 都市施設（都計道路、駐車場、公園・緑地等）の整備	8-6 港湾・漁港の整備
	8-3 住宅の供給と安心できる住環境の整備	8-7 公共交通の確保
	8-4 生活排水の適正処理	8-8 地域情報化の推進
9 環境を大切に将来につなぐまち	9-1 一般廃棄物の適正処理と省資源・循環型社会の構築	9-2 斎場の運営と墓地の整備
		9-3 環境保全対策の推進

## ◆行政「計画推進」

10 計画を実現する行政	10-1 身近に感じられる開かれた行政の推進 ●広聴・広報活動の充実と情報公開の推進 ●広域行政の推進	10-2 戦略的な行政経営体制の確立 ●計画的な行政経営 ●将来を見据えた行財政改革の実行 ●健全な財政運営 ●市有財産の有効活用と適正な管理 ●積極的な人材育成・能力開発と組織の活性化	10-3 信頼される組織体制の確立 ●市税の適正な賦課と収納率の向上 ●住民記録の正確な記録と適正な管理 ●公共事業等の適正な入札・契約の執行 ●公金の適正な管理



## 主な目標の一覧

施策名		指標名	現状値	目標値	
			平成24年度	平成28年度	平成34年度
施策 1-1	家庭教育の支援と 青少年教育の充実	子どもに、自ら進んであいさつ、 声かけをする市民の割合	74%	80%	85%
1-2	就学前の教育、保育等の充実	幼保一体型施設整備園（開園数）	1園	4園	7園
1-3	小・中学校教育の充実	市と県の平均正答率の差 （中1対象県学力・学習状況調査）	+0.2 ポイント	+1.5 ポイント	+2.5 ポイント
		「備前まなび塾」参加率 （参加者数／対象児童生徒数）	—	30%	40%
1-4	子育て不安の解消	安心して子どもを産み育てること ができると感じている市民の割合	33.4%	50%	70%
1-5	高校教育における柔軟な 学びの場の提供	進路決定の割合 （（進学＋正規就職者）／卒業者） *片上高校に限る	39%	50%	60%
3-2	芸術・文化活動の推進	芸術・文化に接する機会があった 市民の割合	48.3%	53.0%	57.0%
4-1	コミュニティの育成と 地域活動の支援	「まちづくりサロン」の 参加者数	—	100人	200人
		ボランティア、NPO活動団体数	25団体	30団体	35団体
5-3	消防・防災体制の強化	自主防災組織率	66.2%	100%	100%
		避難所を知っている市民の割合	68.0%	100%	100%
6-3	高齢者への福祉の充実	高齢者が安心して生活できると 感じている市民の割合	20.5%	22.0%	25.0%
6-5	生涯を通じた健康づくりの 推進	自分の健康に気をつけている 市民の割合	86.7%	95.0%	97.0%
7-1	魅力ある農林業の推進	有害鳥獣による農作物被害面積	512 a	300 a	100 a
7-2	里海づくりを柱とした 水産業の振興	回復させたアマモ場の面積	200 ha	250 ha	300 ha
7-4	賑わいをもたらす観光の振興	市内観光施設の入場者数	87万5千人	100万人	120万人
8-5	道路環境の整備	市道舗装率	84.0%	85.0%	90.0%
8-7	公共交通の確保	週1回以上公共交通（バス）を 利用している市民の割合	5.3%	7.0%	8.0%
9-1	一般廃棄物の適正処理と 省資源・循環型社会の構築	市民1人あたりのごみの 総排出量	296 kg	296 kg	293 kg
9-3	環境保全対策の推進	地球温暖化防止のための行動に 取り組んでいる市民の割合	27.4%	50.0%	70.0%

【問い合わせ先】 企画政策課企画調整係（☎64-1871）